

平成8年度  
帰国研修員フォローアップチーム報告書  
－青果物流通コース－

平成9年3月

JICA LIBRARY



J 1142493(4)

国際協力事業団  
大阪国際センター

大 国 セ

JR

97-01



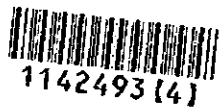




平成 8 年度  
帰国研修員フォローアップチーム報告書  
－青果物流通コース－

平成 9 年 3 月

国際協力事業団  
大阪国際センター



1142493(4)

## 序文

この報告書は、国際協力事業団大阪国際センターが実施している集団研修「青果物流通コース」に参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として派遣された調査の内容を取りまとめたものです。

本調査団は、平成8年7月8日から7月20日までの13日間、インドネシア、マレーシアの2ヶ国を訪問し、帰国研修員所属先機関を訪問するとともに、帰国研修員の活動状況および当該分野における両国の実情の把握に努め、必要に応じた助言を行いました。

本報告書では、まず本研修の過去の実績について整理・分析し、JICAの研修事業における位置づけについて明確にし、帰国研修員との面接を通じた帰国後の適用度合い、コースに関する意見について報告します。最後に、現地調査を通じた両国の青果物流通の現状について報告し、今後の研修に対する提言を行います。

本報告書が各国の青果物流通の現状、帰国研修員の活動状況などについて関係各位の一人深いご理解をいただくための一助となり、今後の研修コースの改善に資することができれば幸いです。

なお、本調査団派遣にあたり数々のご協力を賜った大阪市中心卸売市場ならびに現地においてご協力いただいた在外公館および関係機関の方々にあらためて謝意を表します。

平成9年3月

大阪国際センター

所長 鈴木 治夫

# 目 次

## 序 文

I. 本研修コースの概要	
1. コースの概略	1
2. カリキュラム構成	1
3. 過去6年間の評価	2
4. カリキュラム構成表	5
5. 国別・年度別受入実績	6
II. 派遣チームの概要	
1. 派遣目的	7
2. 調査内容	7
3. 団員構成	7
4. 調査期間	7
5. 調査日程	8
III. 各訪問先での調査結果	
1. インドネシア	9
2. マレーシア	13
IV. 現地視察による青果物流通の状況	
1. インドネシア	17
2. マレーシア	22
V. 研修コースに対する提言	28
VI. 添付資料	
1. 主要面談者リスト	29
2. 入手資料	31
3. 事前配付したアンケート用紙	32
4. 研修員名簿	37



# I. コースの沿革

## 1. コース概略

### (1) 背景

開発途上国における都市化の急速な進展にともない、人口の地域的集中が生じており、生鮮食料品の円滑な流通の確保が重要な課題となっている。そのため、食品流通に関して管理的立場にある行政官に対し、卸売市場を中心とした計画的・総合的な生鮮食料品の流通組織についての知識を与え、途上国の食生活の向上を図ることは急務となっている。

### (2) 目的

本コースは青果物流通に関する①生鮮食料品の基本理論②卸売市場の歴史的経過③卸売市場の現状・将来構想④生産地の現状⑤消費地の現状などについて、講義および見学を通して市場流通全体の仕組みを理解し、その改善対策を行える指導的行政官を育成することを目的とする

### (3) 到達目標

- ①日本の事例を通した卸売市場の発達経過の理解
- ②卸売市場法で制定された統一的ルールによる卸売市場の運営、機能の習得
- ③生産地での生産技術・出荷組織ならびに消費地での小売販売技術などの習得

## 2. カリキュラム構成

卸売市場を中心とした日本の青果物流通制度を流通の上流（生産者）から下流（消費者）までを講義・見学を通して体験できる構成となっている。とりわけ、卸売市場の機能・役割については多数の講義・見学時間を割いており、卸売市場が日本において果たす役割について具体的な理解を促す<sup>1)</sup>。

平成7年度までの主な変更点は以下のとおりである。

- ①技術研修期間の変更：平成7年度より期間を短縮して実施している<sup>2)</sup>。
- ②日本語期間の延長：技術研修期間を短縮する一方日本語集中講習を1週間から2週間へと延長した。
- ③水産物・食肉流通講義の廃止：平成4年度までは水産物流通に関する講義、平成6年

<sup>1)</sup> 5ページカリキュラム表参照。

<sup>2)</sup> 具体的には以下のとおり。

～平成6年度 全体受入期間12.5週間、技術研修期間10.5週間  
平成7年度～           〃       11.5週間、           〃       8.5週間

度までは食肉流通に関する講義を入れていたが、平成7年度より廃止し、青果物流通のみをターゲットとする研修へと変更した。ただし、大阪市中心卸売市場本場および南港市場への見学では、鮮魚および食肉のセリの見学を従来どおり実施している。

④見学旅行の変更：平成6年度までは生産地および東京の2カ所の見学旅行を実施していたが、平成7年度より生産地への研修旅行のみへと変更した<sup>123</sup>。

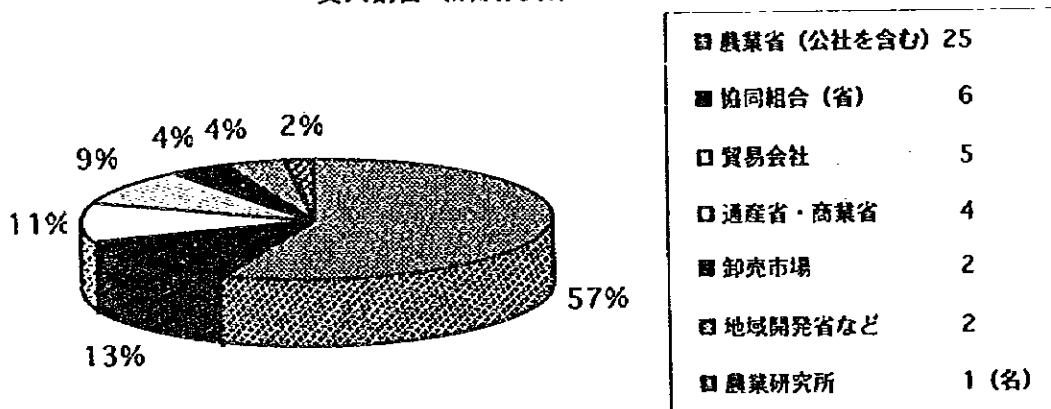
### 3. 過去6年間の評価

#### (1) 参加研修員構成

平成7年度終了時で25ヶ国より45名の研修員が本コースに参加してきた<sup>124</sup>。本邦研修参加時点での平均年齢は34.7歳である。

参加資格要件は、「青果物流通施策の整備・近代化などを担当する中堅行政官で、当該分野につき5年以上の経験を有する40才以下の者<sup>125</sup>」となっており、過去6年間変更は加えられていない。現在までの参加研修員の所属先構成は以下のとおりである。

受入割合（所属先別）



農業省からの研修員が過半数を占めている一方で、卸売市場に所属する研修員は4%であった。また、協同組合および協同組合省からの参加者の出身国は、パプア・ニューギニアの集団農場経営者を除く5名はインドネシアであった。

<sup>123</sup> 生産地へは長崎（平成2年度）、青森（平成3年度、4年度）、宮崎（平成5年度以降）に見学に行っている。東京ではいずれも大田市場にて花き市場を見学しているほか、葛西トラックターミナルやつくばの食品総合研究所に見学を訪れている。なお、平成7年度以降は東京に変わって大阪の鶴見にて花き市場の見学を行っている。

<sup>124</sup> 国別・年度別一覧については6ページ国別・年度別受入実績表を参照。

<sup>125</sup> GIでは以下のように記述している。なお、\*印以下は平成7年度より挿入している。

be administrators who are in charge of implementation of modernization measures for wholesale markets or distribution of fresh fruit and vegetables, with practical experience of at least 5 years,

\* the programme of this training course is mainly focused on the wholesale market system and distribution through wholesale markets.

役職は地方の農業普及員、担当官といった実務者から本省流通担当部長などの管理職まで広範囲な職務レベルから参加しているが、本省課長・課長補佐クラスからの参加が最も多い。

## (2) 研修員による帰国時のコース評価

参加研修員が帰国前に提出する評価表 (Questionnaire) から、主な評価項目に関する研修員の評価を下表に示す<sup>166</sup>。

(単位：%)

研修範囲	広すぎる	ちょうどよい	狭すぎる		
	13	87	0		
研修レベル	高すぎる	ちょうどよい	低すぎる		
	13	87	0		
専門程度	専門的すぎる	ちょうどよい	一般的すぎる		
	11	82	5		
研修期間	長すぎる	ちょうどよい	短すぎる		
	8	84	8		
期待充足度	満足	ほぼ満足	少し満足	不満足	
	37	58	8	0	
習得技術の適用性	かなり適用できる	よく適用できる	大体適用できる	あまり適用できない	ほとんど適用できない
	34	55	11	0	0

期待充足度および習得技術の適用性に関してはばらつきがあるものの、全体として良好な評価を得ている。また、研修内容・期間などを変更した平成7年度についても全体の評価に大きな変化はみられなかった。

個別意見では、今後追加すべき項目として本研修の周知的項目 (包装に関する講義・実習、収穫後の冷蔵・貯蔵方法、収穫後の加工技術、マーケティング戦略) があげられていたほか、ほぼ毎年度、農協の機能・役割に関する研修に多くの時間を割いてほしいという意見がみられた。生産者の収穫後処理から卸売市場への出荷までは研修旅行として1週間程度のプログラムを組んであるが、特に農業省などから参加している研修員にとっては、生産地の状況に対するニーズが高い。本コースにおいても農協に関する時間を増やすべき

<sup>166</sup> 平成2年度は評価集計資料がなかったため平成3年度～平成7年度の38名からの評価となっている。

かという議論が受入先ともなされてきたが、主目的が卸売市場を中心とする流通に関する知識の習得であることから、農協は生産者側の担い手として紹介することにとどめておくべきであるという結論に達している。

また、農協に関しては八王子国際研修センターにおいて専門の研修が実施されており、類似分野での研修実施を避けるためにも現状のカリキュラムが適当である。

### (3) 他コースとの比較

約520コースの集団型研修コースのうち、研修内容に関して関連があると思われる研修コースは15コースほどあげられるが<sup>47</sup>、研修内容の重複があると思われる研修は上述した八王子国際研修センターの「農業協同組合Ⅱ」と大阪国際センターの「日本市場商品流通システムセミナー」がである。

農業協同組合Ⅲは、農協組織業務に従事する者に対し日本の農業生産ならびに流通における農協の役割についての研修であり、東京大田市場の見学や農産加工に関する見学などが盛り込まれているが、当コースは流通だけでなく日本の農協組織のあらゆる活動形態を網羅しており、研修項目の重複はみられるものの、カリキュラム全体としての類似性はみられない。

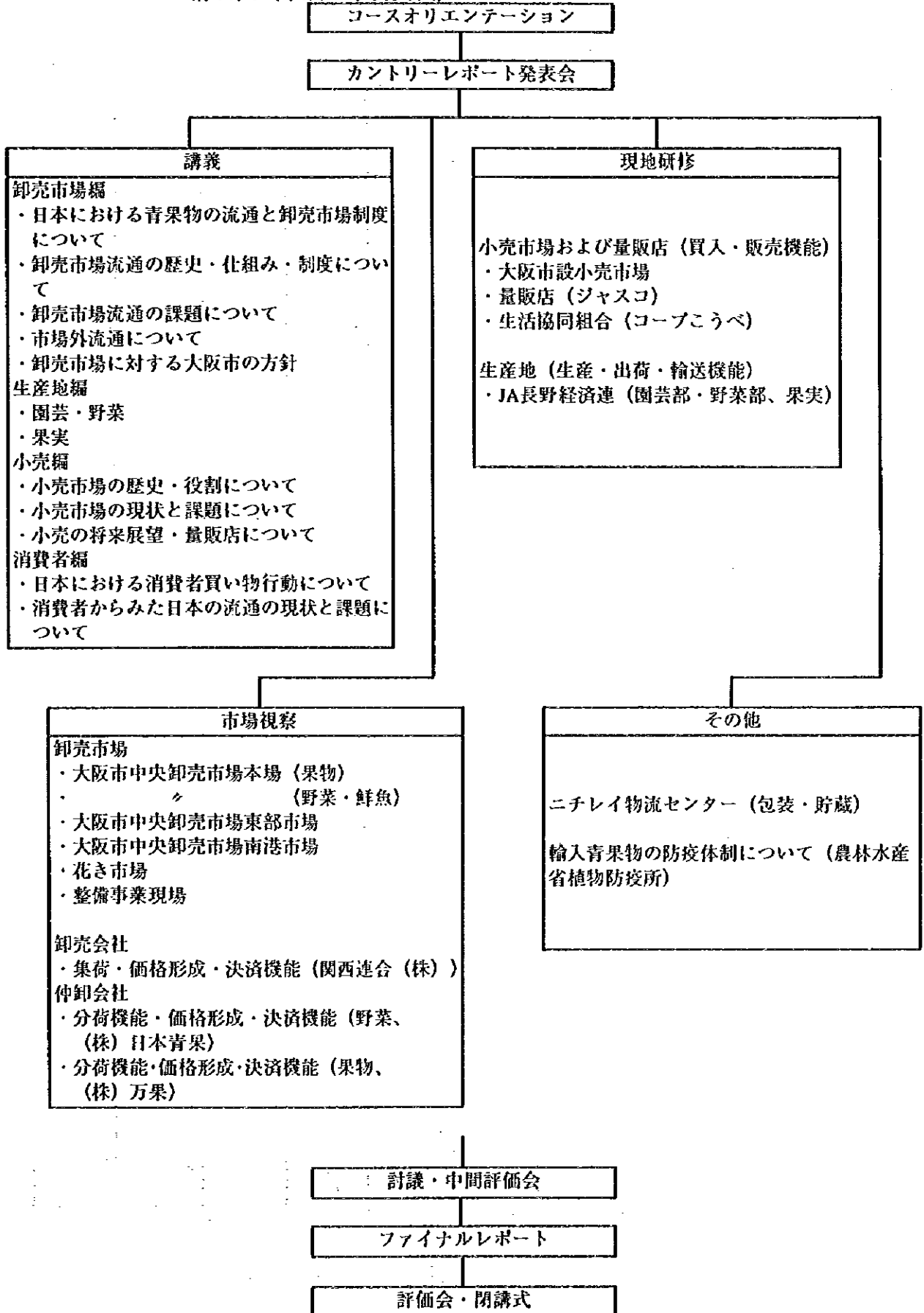
また、日本市場商品流通システムセミナーは日本市場への参入を計画している国の輸出振興行政官に対し、日本の市場流通の特性を紹介し、容易な参入を促すためのコースである。研修の中で取り扱われる商品は必ずしも青果物だけでなく繊維製品などの各種工業製品にもおよんでいる。

結論として、青果物流通コースは農業協同組合Ⅱで取り上げる農協の一部の役割について流通の観点から紹介するコースであり、日本市場商品流通システムセミナーが扱っている商品の中で青果物の流通に特化した研修であるといえる。

<sup>47</sup> 本文中の2コース以外には以下の13コースが本コースと関連があると考えられる。

酪農振興・検査技術（帯広）、食肉および食肉加工品の補蔵技術（帯広）、農業普及指導者Ⅱ（筑波）、野菜生産Ⅱ（筑波）、米の収穫後処理技術（筑波）、包装技術（TIC）、漁業協同組合（インテンシブ）（神奈川）、漁獲物処理（神奈川）、水産食品品質保証（神奈川）、漁港および流通施設計画セミナー（神奈川）、物流近代化（名古屋）、施設園芸技術（大阪）、食品加工・保全技術（中国）、

4. カリキュラム構成表 (平成8年度実績)



5. 国別年度別受入実績

割 当 国	平成 2年度	平成 3年度	平成 4年度	平成 5年度	平成 6年度	平成 7年度	合 計
バングラデシュ	—	—	1	1	—	—	2
中国	0	—	—	1	—	—	1
インド	—	—	—	—	—	1	1
インドネシア	2	0	1	2	1	1	7
マレーシア	1	0	1	1	1	—	4
ミャンマー	—	—	—	—	1	—	1
タンザニア	—	—	—	1	—	—	1
パプア・ニューギニア	—	—	—	—	1	1	2
シンガポール	0	—	—	—	—	—	0
タイ	2	—	1	—	1	—	4
グレナダ	—	—	—	1	—	—	1
モロッコ	1	—	—	—	—	—	1
ヴェネズエラ	—	—	—	1	—	—	1
ブルガリア	—	—	—	1	—	—	1
パナマ	1	—	—	—	—	—	1
シリア	—	1	—	—	1	—	2
ガーナ	—	1	1	—	—	—	2
ケニア	—	1	1	—	—	—	2
ケニア (個別)	—	—	—	—	—	1	1
南アフリカ	—	—	—	1	—	—	1
アルゼンティン	—	—	1	—	—	1	2
ブラジル	—	—	—	—	—	1	1
コロンビア	—	1	—	—	—	—	1
キューバ	—	—	—	—	1	—	1
ドミニカ共和国	—	—	—	—	—	1	1
メキシコ	—	1	0	—	—	—	1
ボリビア	—	—	—	—	—	1	1
ボリビア (個別)	—	1	—	—	—	—	1
計	7	6	7	10	7	8	45

## II. 派遣チームの概要

### 1. 派遣目的

- 1 帰国研修員および帰国研修員所属先関係者などへの面接を通して研修内容に関する定着度および適用度について確認を行い、研修コースの評価を行う。
- 2 卸売市場を中心とする現地の青果物流通の現状を視察・調査することによって、途上国のニーズにより適応したコース実施に向けてのカリキュラム改善の一助とする。

### 2. 調査内容

#### 1 調査対象国

現在までの帰国研修員数の多いインドネシア（7名）およびマレーシア（4名）を対象国とした。結果として、現地視察と同時により多くの帰国研修員と面会することができた。

#### 2 調査項目

- a. 関係者との面接
  - ・習得知識・技術の移転・普及状況の確認
  - ・当該分野人材育成事業におけるJICA研修の位置づけ
  - ・対象国における候補者選定のプロセスの確認
  - ・当該分野の展望と課題（阻害要因）
- b. 関連施設の視察
  - ・現地卸売市場および関連施設の視察
  - ・その他の市場および流通設備の視察

### 3. 団員構成

#### ①団長／総括

大阪市中心卸売市場 庶務課 平岩 忠邦 課長

#### ②団員／現地調査

大阪市中心卸売市場 東部市場農産係 近藤 浩明 係長

#### ③団員／企画調整

JICA 大阪国際センター 研修課 末田 和也 職員

### 4. 調査期間

平成8年7月8日（月）～平成8年7月20日（土）（13日間）

## 5. 調査日程

月日	曜日	行程・訪問先	調査内容
7/8	月	移動 (大阪12:10 → ジャカルタ19:45 EG221)	
9	火	農業省食用作物総局 内閣官房 農業省国際協力局 JICAインドネシア事務所	表敬、関係者面談 表敬 表敬、関係者面談 表敬
10	水	在インドネシア日本大使館 協同組合小規模企業開発省 ジャカルタ市	表敬 関係者、帰国研修員面接 表敬、関係者面談
11	木	ジャカルタ市卸売市場 ジャカルタ→バンドン	現地視察および技術指導
12	金	協同組合小規模企業開発省西ジャワ支部 バンドン卸売市場	関係者および帰国研修員面談 現地視察および技術指導
13	土	バンドン→ジャカルタ	
14	日	資料整理日	
15	月	JICAインドネシア事務所 移動 (ジャカルタ13:05→クアラルンプール16:05 MH710)	調査報告
16	火	JICAマレーシア事務所 人事院東方政策局 露天市 (Pasar Manam)	表敬、調査日程打ち合わせ 表敬、関係者面談 現地視察
17	水	連邦農業流通局 (FAMA)	関係者および帰国研修員面談
18	木	クアラルンプール市卸売市場 旧クアラルンプール市卸売市場 産直市場 (Pasar Tani)	現地視察および技術指導
19	金	JICAマレーシア事務所 移動 (クアラルンプール23:25→	調査報告
20	土	→大阪06:50 NH154)	



### Ⅲ. 各訪問先での調査結果

本章においては、事前に配付した質問票の集計結果および現地での聞き取り調査の結果を報告する。

#### 1. インドネシア

##### (1) 農業省国際協力局での聞き取り調査結果

本コースも含めた農業関係のGIは内閣官房より全て本局へ送付される。本コースGIについては国際協力局より食用作物園芸総局へ配付され、さらに地方オフィス（27カ所）に送付される。本コースに対する先方の評価は良好で、具体的な要望などはなかったものの、引き続き当該分野での受入を希望していた。

また、研修員は帰国後、内閣官房に対してレポートを提出することが義務づけられているとのことであった。

先方よりの唯一の要望としては、地方オフィスへGIを送付していることから、できるだけ早くGIを送付してほしいとのことであった。

##### (2) 帰国研修員所属先および帰国研修員への聞き取り調査結果

本コースに対する評価はおおむね良好であった。具体的に直接適用可能な技術・知識はないものの、インドネシア国内では始まったばかりの新しい制度—例えば生産者の共同出荷、品質管理、食品検査など—についての多くの示唆を得ることができたということであった。帰国研修員の共通した意見としては、農協を中心とした生産者側の研修が非常に有益であったということであり、協同組合省においては現在インドネシア国内で導入中の全国的な農協システムの展開について説明を受けるなど、日本の知識・ノウハウの活用が確認された。

また、現在魚介類については市場においてセリが行われているが、青果物については相対（あいたい）取引が中心となっているため、安定した価格が保証されていない。そこで、複数の帰国研修員が本コースにて得た、日本におけるセリを中心とした卸売流通システムをもとに、インドネシアにおいても青果物卸売流通におけるセリシステムを導入すべく、農業省食用作物園芸総局において検討を重ねている。

今後追加を希望する研修項目としては、現在の大阪市中央卸売市場がどのようにして発展してきたか、その歴史的過程についての説明がほしいとのことであった。

(3) 帰国研修員への質問票集計結果（7名中7名より回答、表中の数字は回答人数を表す）

1. 研修コースの評価

a. 研修で得た知識・技術の適用性

All	Most	Some	A little	None
0	2	5	0	0

個別回答

・技術指導、経営診断、市町村単位での農協の業務管理・評価など。

(Dodi Rayadi Sukadar)

・インドネシアに必要な組織の改善、品質管理、マーケティング原理、青果物に関する政府の政策について新たな知識を得ることができた。

(Dadang Syamsul Munir, Rinie Sri Yanti)

・青果物のマーケティングについて新たな知識を得ることができた。

(ex-participants from Directorate of Food Crops and Horticulture Economics)

・青果物の価格形成について。

(Mustari Jalal)

b. 研修員自身に対する有益性

Yes	No
7	0

その理由（複数回答）

昇進	責任	昇給	業務内容	専門性	国際理解	その他
1	2	0	2	7	3	0

研修員所属先に対する有益性

Yes	No
7	0

その理由（個別回答）

- ・業務に関する適切な運営管理が可能になる。 (Dodi Rayadi Sukadar)
- ・政府機関と国内の卸売業者に関する専門性、国際的連携（漬け物に関する日本との関係など）、青果物に関する情報源の一つになりうる。

(Dadang Syamsul Munir, Rinie Sri Yanti)

- ・職員の業務改善など。

(ex-participants from Directorate of Food Crops and Horticulture Economics)

- ・職員の専門性および人材育成

(Mustari Jalal)

c.現在の職務との関連性（個別回答）

- ・生産者レベルでの組織作り、卸売市場の組織およびその機能、青果物の供給会社における連携、青果物の品質改善、青果物の公平な取引および安全な生産に関する政府の立法機能。
- ・卸売市場流通に関する講義、卸売・小売市場・農協などの見学。

(Dadang Syamsul Munir, Rinie Sri Yanti)

(ex-participants from Directorate of Food Crops and Horticulture Economics)

d.研修で得た知識を推進するにあたっての阻害要因（複数回答）

指導者の欠如	2
政府支援の不足	3
資金不足	3
技術的な文献の不足	3
国外からの専門家の不足	0
適切な交通機関の不足	1
長期的展望の欠如	0
外資不足	1
経済的制約	1
知識の流出	0
管理能力の不足	2
研修機関の欠如	2
外国の干渉	0
政治的制約	0

## 個別回答

- ・ 現在インドネシアでは、小規模農家・農協・生産者団体が別個に活動しており、これらの連携がスムーズに行われていない。 (Dadang Syamsul Munir)
- ・ 青果物の取引および輸出に関する協同組合が存在しない。 (Rinie Sri Yanti)
- ・ 国内の青果物の生産は小規模で低品質である。  
(ex-participants from Directorate of Food Crops and Horticulture Economics)
- ・ 生産物の品質に最も大きく影響する輸送機関の未発達が最大の原因である。  
(Mustari Jalal)

## 2. コース改善に対するアドバイス

- ・ 多様なセクターから研修員を参加させる (民間、農協など)。  
(Dadang Syamsul Munir, Rinie Sri Yanti)
- ・ 青果物に関する農協の役割・機能についてより多くの時間を割くべきである。  
(Rinie Sri Yanti)
- ・ 生産地 (農協・農家など) の見学を増やすべきである。  
(ex-participants from Directorate of Food Crops and Horticulture Economics)
- ・ 生産者の活動を知るためにもう 1 週間追加してほしい。  
(Mustari Jalal)

## 2. マレーシア

### (1) 人事院東方政策局での聞き取り調査結果

日本側より送付されたGIは、東方政策局の判断によって下記の機関に配付される。

農業省

連邦農業流通局 (FAMA)

研究開発機関 (MARDIなど)

マレーシア農業大学

経済開発公社

人事院においては選考は行わず、各省・機関からの候補者を取りまとめて日本側に通知するのみである。各省・機関の国際協力局・部において研修に関する委員会が組織されており、各省・機関からの候補者はこの委員会において選考される。

研修員は帰国後、研修に関する一般的な事情聴取のアンケート方式レポートを人事院に提出するよう義務づけられている。本レポートは日本以外で研修を受けた者に対しても提出が義務づけられている。研修内容に関する詳細レポートについては、各委員会に対して行っている。

### (2) 帰国研修員所属先および帰国研修員への聞き取り調査結果

本コースに対する評価は全体的に良好であった。特にFAMAに所属する帰国研修員は要職に就いているものもあり、帰国後の研修成果について高い評価を得ることができた。

また、マレーシアにおいても、農協を中心とする生産者側の技術・知識が参考になったという意見が多く聞かれた。特に包装・選別における様々な技術やプラスチック容器の再利用技術、収穫時のロスを減少させるための工夫などはマレーシアに適用すべき技術・知識であるとのことであった。

(3) 帰国研修員への質問票集計結果 (4名中3名より回答)

1. 研修コースの評価

a. 研修で得た知識・技術の適用性

All	Most	Some	A little	None
0	1	1	1	0

- ・業務の専門性について。特に加工食品の流通業務に従事する自分自身の専門性を深めることができた。 (Razalli bin Muid)
- ・帰国後のセミナー・討論などにおいて自分の知識や経験が深化されたことがわかった。 (Samsuri Mohtar)

b. 研修員自身に対する有益性

Yes	No
3	0

その理由 (複数回答)

昇進	責任	昇給	業務内容	専門性	国際理解	その他
0	2	0	1	3	2	0

研修員所属先に対する有益性

Yes	No
3	0

その理由 (個別回答)

- ・生鮮食料品の流通は特に小規模農家にとって重要な問題である。農業省農業局では引き続き収穫後処理や、市場までの輸送などに対して技術的指導を行っていく予定であり、その点では本研修は非常に有益であった。 (Ahmad Zakaria Mohd Sidek)

- ・現在、マレーシアにおいて現金作物の流通を所掌しているFAMAにとってはセリを中心とした日本の卸売市場や、それを支える様々な機関－農水省、自治体、生産者団体、卸売業者、小売業者など－を知ることができたことは非常に有益であった。これらの技術や知識は今後のFAMAの発展に寄与する。  
(Razalli Muid)
- ・日本・韓国・台湾の卸売市場に関するセミナーの開催、新規卸売市場の建設業者に対するコンサルタント、日本の関係者・専門家との連携の強化などの点において有益であった。  
(Samsuri Mohtar)

c.現在の職務との関連性

- ・研修旅行中の生産者側の流通への参加、例えば選別・包装・輸送などが、小規模農家の育成を担当している自分の業務に役立っている。  
(Ahmad Zakaria Mohd Sidek)
- ・生産者の品質管理。  
(Razalli Muid)
- ・農産物の流通システム、セリ・システム、卸売市場の近代化  
(Samsuri Mohtar)

d.研修で得た知識を推進するにあたっての阻害要因（複数回答）

指導者の欠如	1
政府支援の不足	0
資金不足	1
技術的な文献の不足	2
国外からの専門家の不足	1
適切な交通機関の不足	1
長期的展望の欠如	1
外資不足	0
経済的制約	2
知識の流出	0
管理能力の不足	2
研修機関の欠如	0
外国の干渉	0
政治的制約	0

## 個別回答

- ・生産者団体レベルでの低い管理能力と輸出するに足る品質をもった青果物が少ないことである。現在、自らの海外とのチャンネルで青果物を輸出している商業農家は少ない。なぜならば、生産者まで輸出に関する情報が行き渡っていないからである。

(Ahmad Zakaria Mohd Sidek)

- ・青果物の生産を促進するだけの予算がない。農業生産物の優先順位が他の生産物に比べて低い。土地あたりの利益率の低い青果物に対しては土地の割当が減少してきている。

(Razalli Muid)

- ・マレーシアでは青果物に対する品質の意識が日本に比べて低い

(Samsuri Mohtar)

## 2. コース改善に対するアドバイス

- ・生産物の品質に大きく影響する収穫後処理について重きをおくべきである。

(Ahmad Zakaria Mohd Sidek)

- ・漬け物の流通に関する項目を追加してほしい。

(Razalli Muid)

- ・フォローアップの研修、または帰国研修員の国において成功したプロジェクトについての調査団の派遣など。

(Samsuri Mohtar)



## IV. 現地視察による青果物流通の状況

本章においては、現地視察を通じた青果物流通の状況、とりわけ卸売市場に関する両国の整備状況について報告する。

### 1. インドネシア

インドネシアにおいてはジャカルタ市およびバンドン市の中央卸売市場について調査を行った。

#### (1) ジャカルタ市中央卸売市場 (写真1、2、3、4)

インドネシア最大規模のジャカルタ市中央卸売市場はジャカルタ市が管理しており、250人の職員が勤務している。主な職務は場内の清掃、警備などであり、個々の取引には関与していない。

基本的には24時間取引が行われているが、最も取引の盛んな時間は午前2時～午前3時頃までである。本市場では果物、野菜を取り扱っており、1日の取扱高は約2,200トンである。

1日に約20,000の業者が場内で取引を行っている。場内全体の店舗数は3,423であるが、うち2,000は指定区域を間借りしている登録業者であり、約3,000ほどある未登録業者はその日によって取引を行う場所が異なる<sup>11)</sup>。また、取引の多い日には未登録業者は店舗を開設できないこともある。

セリ売は行われておらず、生産地から生産物を輸送してきた集荷商人と卸売業者間での相対（あいたい）売が中心となっている<sup>12)</sup>。

衛生状態は必ずしも良いとはいえない。道路が未舗装のため、雨天時には排水に問題が生じるとのことであった。また、各店舗から出される廃棄物（主に生ゴミ）は目の前の通路に捨てられる。場内の清掃は常に行われているが、その後の洗浄作業を行っている様子はなかった。

また、集・出荷時のロスが大きいこと（写真4）、輸入品以外はダンボールなどの包装資材を使用せずに保存されていることなどが観察された。

<sup>11)</sup> 登録業者については1㎡あたり1日900Rp.（約45円）、未登録業者については取引を行う場所に応じて900Rp.以下で場所が提供される。

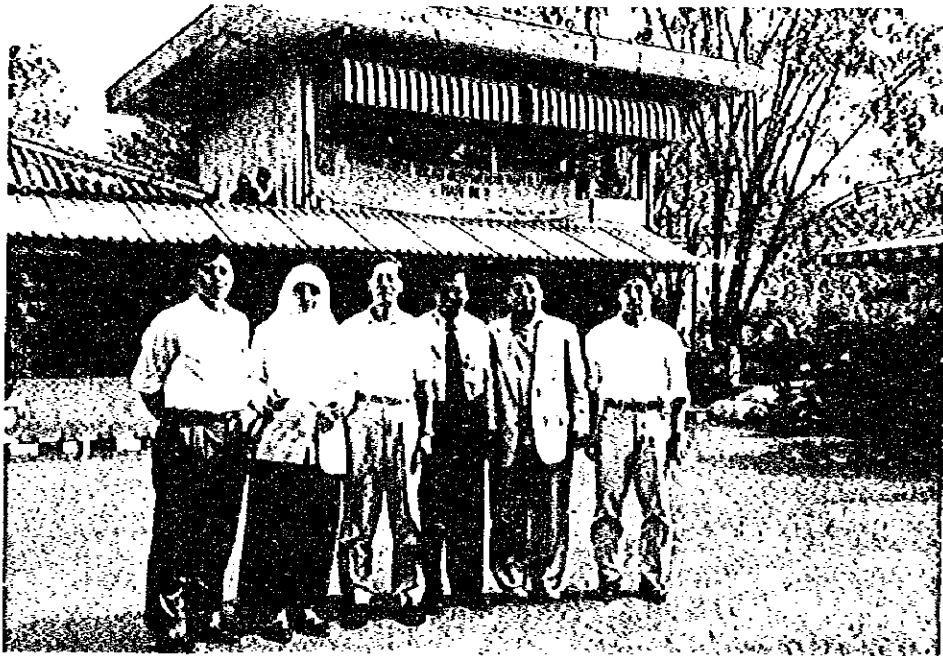
<sup>12)</sup> 漁港周辺で行われる鮮魚の取引に関しては、セリ売が中心となっている。

## (2) バンドン中央卸売市場 (写真5)

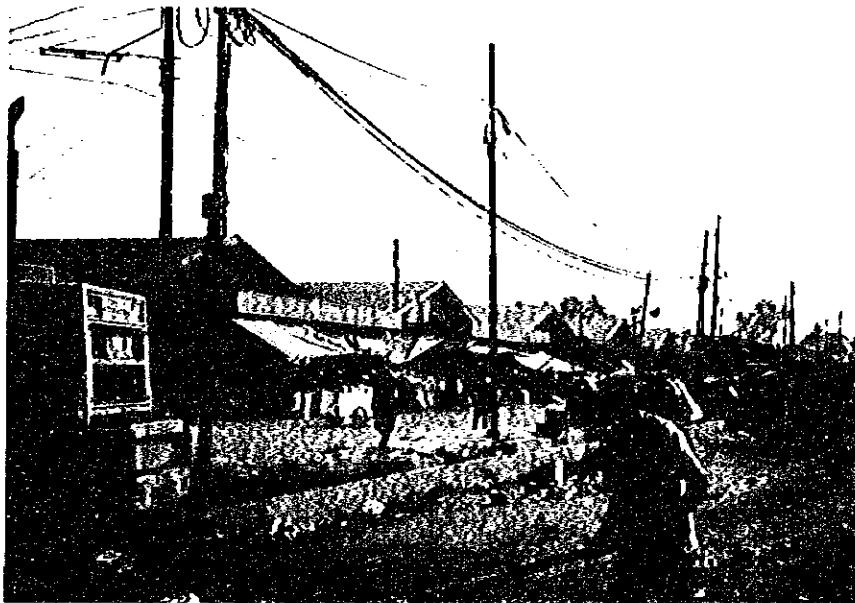
バンドン市にある中央卸売市場は、ジャカルタ市中央卸売市場と異なり、民間の業者によって管理・運営されている。

本市場も24時間運営されており、1,723の店舗が用意されている。ジャカルタ市との大きな違いの1つとして、取引場所を業者が買い取っていることがあげられるが、そのためにかなりの空店舗がみられた。取引方法はジャカルタ市と同じ相対売であった。

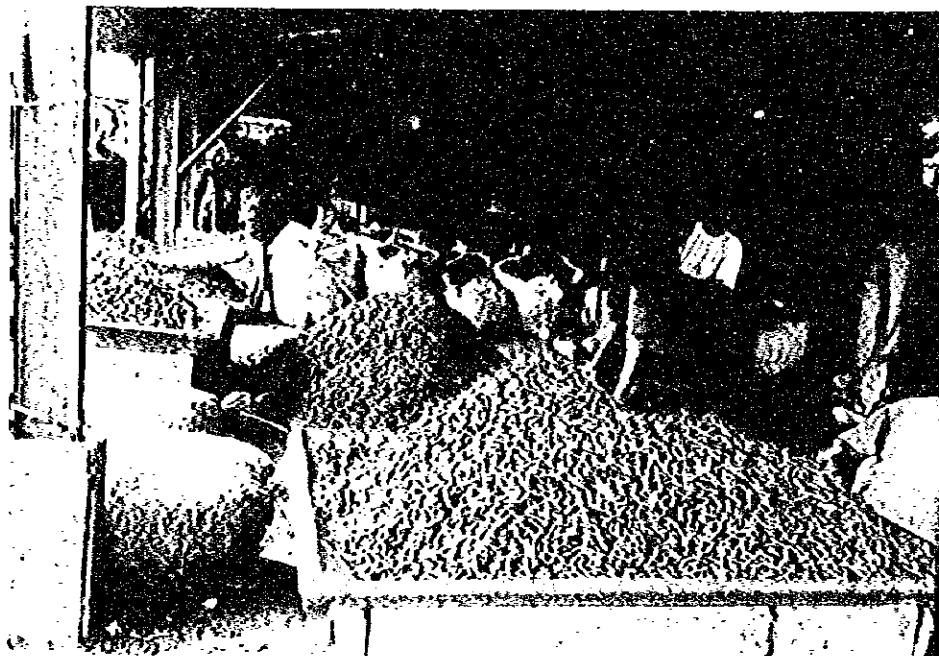
比較的最近建設された市場であるため衛生状態は良好であり、冷凍設備などの周辺施設もジャカルタ市と比較して充実していた。



ジャカルタ市中央卸売市場管理棟



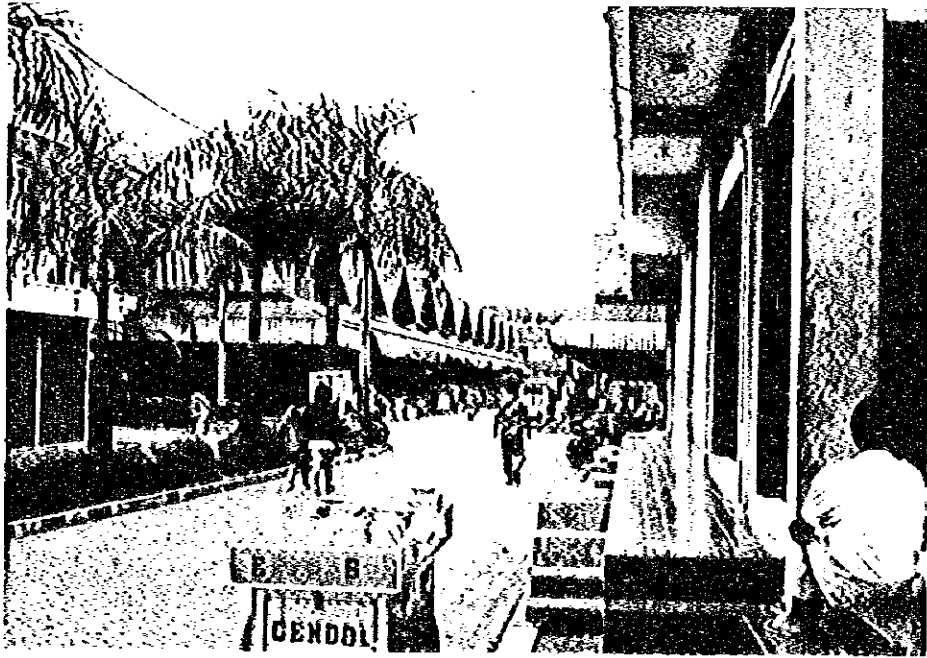
ジャカルタ市中央卸売市場場内



ジャカルタ市中央卸売市場場内での取引の様子



ジャカルタ市中央卸売市場場内での集荷状況



バンドン中央卸売市場



## 2. マレーシア

マレーシアにおいてはクアラルンプール中央卸売市場での調査および各種市場に関する調査を行った。

### (1) クアラルンプール中央卸売市場 (写真6、7)

現在のクアラルンプール中央卸売市場は、1995年7月に開場された新しい市場である。以前の中央卸売市場は建物の老朽化に加えて、市場周辺地域の都市化にともなう交通事情の悪化を理由に移転された。6.21haの敷地内には各種近代設備が用意され、将来的な拡充にも対応できるよう設計されている。建設にあたってはドイツ、シンガポール、日本の卸売市場へ調査団を派遣し、各市場の長所を取り入れている<sup>23)</sup>。

場内には448の登録卸売業者が果物、野菜、鮮魚（淡水、海水魚）の取引を行っており、商品によって取引の時間は異なる。また、集・出荷を行いやすいよう、建物を囲むようにトラックベイが配置されている。トラック1台の駐車時間は30分となっており、制限時間を越えて駐車するトラックについては、超過料金が徴収されるシステムとなっており<sup>24)</sup>、場内の混雑緩和に対する効果は大きい。

取引は相対売であったが<sup>25)</sup>、鮮魚類に関しては他店舗の価格に対して、自分の店舗の値段を大声でアピールするというセリ売に近い取引が行われていた。

保存状態はインドネシアと同様であり衛生的ではなかったが、包装に関してはダンボールなどを使用していた。しかしながら、廃棄場には多量の包装材が確認されたことから（写真8）、今後は再利用についての検討が必要になるとと思われる。

### (2) 公設小売市場 (写真11)

クアラルンプール市郊外の近代的な小売市場および都市部に位置する旧クアラルンプール中央卸売市場を訪問した。

前者は高層住宅の1、2階を小売市場として使用していた。近代的かつ衛生的な状態にもかかわらず、営業している店舗は半分以下であった。理由としては、土日のみ営業する店舗が多いことと、周辺住民のライフスタイルの変化にともなう大型のスーパーマーケットなどの量販店の進出があげられるとのことであった。

後者は前者と対比的に老朽化の進んだ設備で、電気・水道の敷設も完全ではなく、衛生状態はあまり良くなかったが、立地条件から比較的利用者は多かった。

<sup>23)</sup> 例えば、滑りにくい床にするための材質選定についてはドイツを、取引のシステムについてはシンガポールを、建物管理については日本の例を参考にしている。

<sup>24)</sup> 超過料金は1台あたり500マレーシアドル（約25,000円）である。

<sup>25)</sup> 国内の一部の花弁市場では台湾のシステムを導入したセリ売が行われている。

### (3) 移動市 (写真9、10)

クアラ Lumpur 市などの大都市においては、市内各所で決まった曜日に開催される移動市が数グループ存在している。一般的には朝夕に住宅道路を通行止めにして露天市を開いている。

取り扱う商品は生鮮食料品だけでなく、惣菜類、衣料品、日用品、玩具など多品種におよんでおり、一般市民の日常の買い物はこのような市だけで十分とのことであった。

市が終わると、自治体の外郭団体がその地域を清掃しているが、開催中の衛生面には若干問題があるように思われた。

### (4) 産直市場

(3) の移動市と同様のシステムで定期的に行われている小売市であるが、販売しているのは小売業者ではなく、生産者であるという点が異なる。

本市場は連邦農業流通局 (FAMA) が中心となって、生産者保護政策の一環として行われている。従来の流通経路では集荷業者によって生産地での価格決定が不明確になっており、生産者に不利な条件下での取引が行われていた。そのため、生産者が自分の生産物を直接販売することによって公正な取引価格を学ぶことができる。

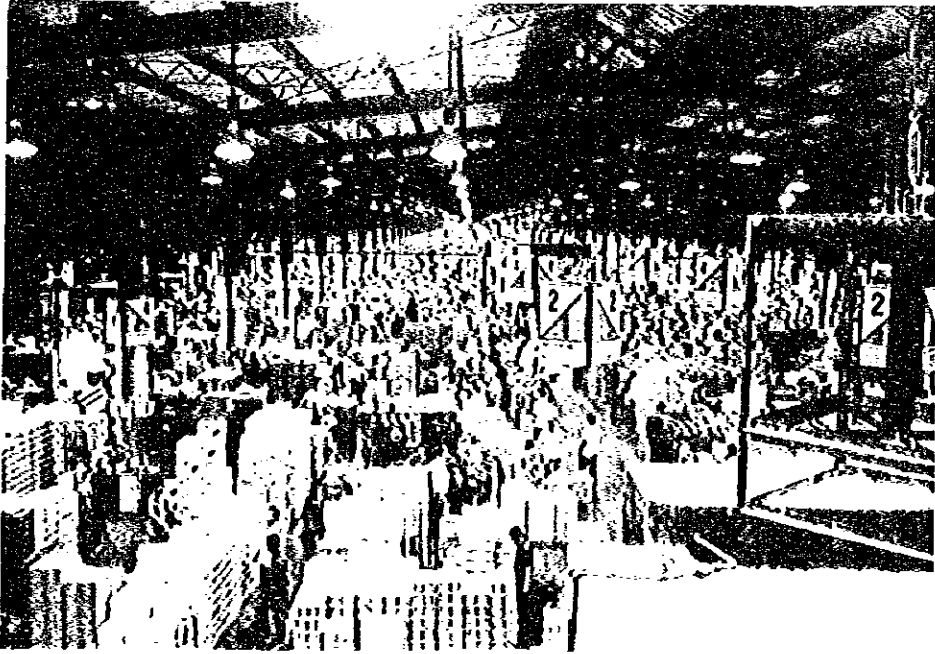
本市場で店舗を開設している生産者は店先に登録証を必ず掲示しており、あわせて当日の小売価格も表示するよう指導されている。従って、消費者にとっても公正な取引が行えるようになっている。

FAMAでは、このような生産者保護のための様々な活動を行っていた<sup>26</sup>。

---

<sup>26</sup> 他にはFAMAが生産者から商品を買取り、独自のブランドで市場に流通させているジャム類や、輸出振興の一環として、果物の選別に関する情報の提供などがあった。(写真12)

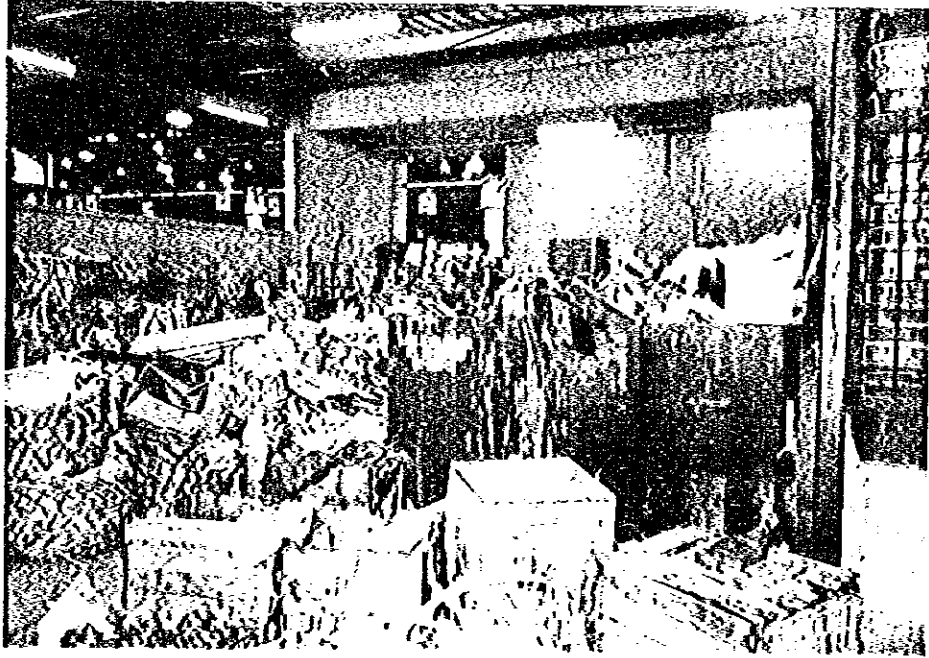




クアラルンプール中央卸売市場場内全景



クアラルンプール中央卸売市場場内での取引の様子



クアラルンプール中央卸売市場場内の廃棄場



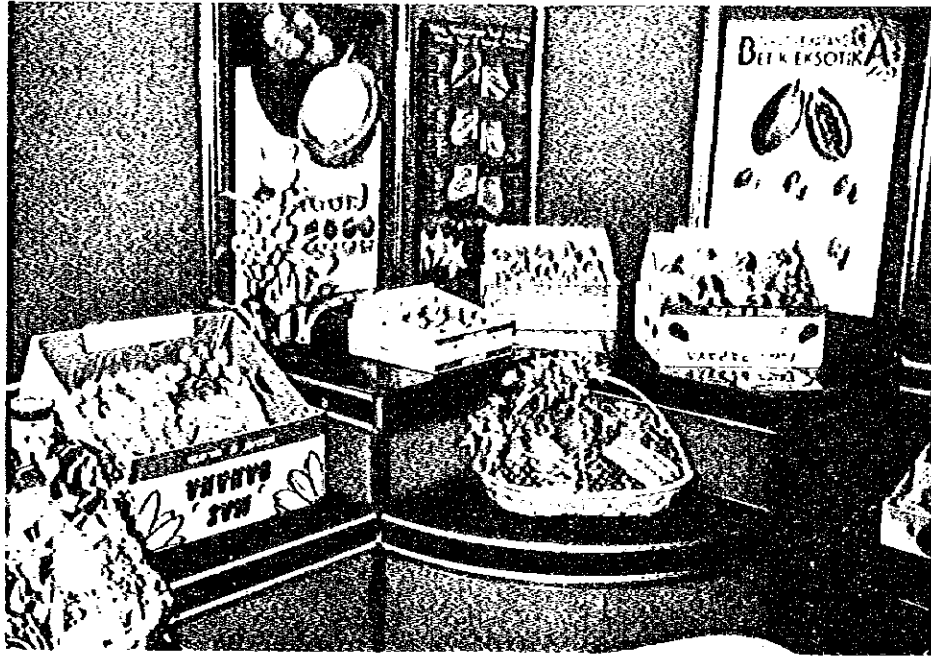
クアラルンプール市内での移動中（写真中央部）



クアラルンプール市内での移動中の様子



公設小売市場（旧クアラルンプール中央卸売市場）



FAMA内にあるインフォメーションセンター

## V. 研修コースに対する提言

本研修は、日本における流通システムの一部を紹介するコースであるため、今回訪問したインドネシア、マレーシアだけを例にとっても卸売市場のシステムだけでなく、インフラの整備状態や食生活の違いなど、青果物流通をとりまく環境が日本とは全く異なっていた。また、両国間でも様々な点でその差異が確認された。

したがって、日本での研修に際しては、1つの事例として日本の青果物流通システムを考えるとという視点が必要ではないかと思われる。また、参加研修員が提供する各国の状況についても、日本との比較対象として最大限活用できるようなカリキュラムづくりが必要であろう。

相対取引中心の卸売流通、集・出荷時のロスの多さ、未発達な包装技術などは両国共通の問題点として確認された点であり、他国についても類似の問題点を抱えていることが予想される。したがって、各研修項目、特に日本の国内事情を解説する講義・見学については、事前の情報提供を通して各講師が参加各国の事情をある程度念頭に置いて講義・解説を進めることができれば、各研修員の理解はより具体的になると思われる。

最後に、今回訪問した両国の帰国研修員から聞かれた共通の意見としては、今後も本研修を継続して実施してほしいという点であった。他国の流通システムを知ることによって自国の状況をより客観的に把握できるようになった、などの意見にみられるように、本コースに参加して得られる研修の効果は大きい。JICAでは青果物流通に特化した研修が本コースしかないことも考慮して、今後も継続的な研修の実施が必要と考えられる。



## VI. 添付資料

### 1. 主要面談者リスト (日程順)

#### 1 インドネシア

##### 農業省食用作物総局

Mr. Soemitro Arintadisastra, Ph.D

Director of Planning and Programming

Mr. Tom Edward M. Napitupulu

Head of Subdirectorate for Foreign Cooperation

Mr. Sri Mulyoko

帰国研修員 (平成2年度)

Mr. Sriyono Joko Sutopo

◇ (平成5年度)

Ms. Suhartini Achmade

◇ (平成7年度)

##### 農業省国際協力局

Mr. H. Suharyo Husen, SE

International Cooperation Bureau, Ministry of Agriculture

Mr. Yandri Ali

International Cooperation Bureau, Ministry of Agriculture

##### JICAインドネシア事務所

中垣 長睦

次長

上石 博人

職員

Ms. Zaharani Marguita

ローカルスタッフ

##### 在インドネシア日本大使館

粗 信仁

参事官

樋田 幸浩

2等書記官

##### 協同組合小規模企業開発省

Mr. Sutrisno Iwantono

Director of R&D for Small Enterprise, Department of

Cooperative and Small Enterprise Development

Mr. Dadang Syamsul Mampir

帰国研修員 (平成4年度)

Ms. Rinie Sri Yanti

◇ (平成6年度)

##### ジャカルタ市中央卸売市場

Mr. Alaudin Tunru

市場長

協同組合小規模企業開発省西ジャワ支部

Mr. H.T. Aonadin Wahidi SH.

Director of General Affairs

Mr. Dodi Rayadi Sukadar

帰国研修員（平成2年度）

バンドン中央卸売市場

Mr. D. Sutisno

市場長

2. マレーシア

JICAマレーシア事務所

水田 加代子

所長

佐藤 映二

次長

西田 基行

協力隊調整員

人事院東方政策局

Mr. Mohd. Ismail Yahaya

Principle Assistant Director, Look East Policy Section,  
Public Service Department

Mr. Mohd. Tajudin Don

Assistant Director, Look East Policy Section, Public  
Service Department

連邦農業流通局

Mr. Razalli Bin Muid

帰国研修員（平成2年度）

Mr. Samsuri Mohtar

〃 （平成5年度）

Mr. Ahmad Zakaria B. Haji Mohd Sidek

〃 （平成6年度）

クアラルンプール市中央卸売市場

Mr. Azli Shah Bin Bashah

Chief Maintenance of KL Wholesale Market

Mr. Lum Tuck

Advisor, Vegetable Wholesaler

Mr. Tai Kong Lin

Import & Wholesale of Fresh Fruits Dealer



2. 入手資料 (いずれも大阪国際センター図書資料室に所蔵)

Nihad Fahmy, *Seminar on marketing of fruits and cut flowers to Western Europe, paper 1*, FAMA, Malaysia, 1996

Abdul Aziz bin Mohd. Yaacob, *Horticulture marketing: key issues and strategies*, FAMA, Malaysia, 1993

Mukhtiar Singh, *The Malaysian experience in developing a market information system for horticultural products*, FAMA, Malaysia

Mukhtiar Singh, *Market potential for horticultural produce: an overview*, FAMA, Malaysia, 1992

Mukhtiar Singh, *Market potential for agricultural produce: an overview*, FAMA, Malaysia, 1994

Federal Agricultural Marketing Authority & International Trade Centre, *Seminar on marketing of fruits and cut flowers to Western Europe, paper 4 Legislations*, FAMA, Malaysia, 1996

Federal Agricultural Marketing Authority, *Market extracts*, FAMA, Malaysia, 1996

FAO/AFMA/FAMA, *Report and proceedings of the regional workshop on improving farmers' involvement in marketing*, FAMA, Malaysia, 1995

Thomas T. Nagle, Reed K. Holden, *The strategy and tactics of pricing: a guide to profitable decision making*, Prentice Hall, 1995

Ernest H. Risch, *Retail merchandising*, Macmillan, 1991

3. 事前配布したアンケート用紙

(1) 援助窓口に対する質問内容

**Questionnaire to the organization which nominates participants**  
(Please type)

1. How do you evaluate the group training course in "Distribution of Fresh Fruits and Vegetables" from the view point of the national policy?

(当該分野に関する政策)

2. Is it difficult to choose appropriate organizations to which GIs (General Information ; course brochures of this training ) are distributed?

(人選機関)

A. Difficult

B. not so difficult

If you choose A, give the reason of it.

3. How do you choose or select applicants ?

(窓口機関での最終人選)

4. How do you evaluate the training in which participants of your country attended?

(帰国後、窓口機関での研修成果の確認)

5. Are there any other similar training opportunities rendered by other foreign countries?

A. Yes

B. No

If you choose A, give an outline of the training.

(他機関主催の研修との比較)

6. How does this course help your country promote the related policy ?

(本研修が当国の政策にどの様な形で役立っているか)

(2) 研修員所属先に対する質問内容

Questionnaire to the organization of the ex-participants  
(Please type)

Name of Organization: \_\_\_\_\_

1. Does your organization place any examinations to select the applicants?

A. Yes                      B. No

If so, please itemize the qualifications to be examined.

(選考方法)

2. Choose and answer on each item.

(コース・G I について)

(1) Duration of the course

A. too long                      B. About right                      C. too short

(2) Qualification

A. too specific                      B. About right                      C. too wide

(3) General Information

A. too late                      B. About right                      C too early

A. Unclear                      B. About right                      C. too precise

3. Do you have any systems to disseminate the knowledge the ex-participants acquired in this training?

(研修結果の普及方法)

A. Yes                      B. No

If so, what kind of system is it?

A. Seminar                      B. Reports to be delivered                      C. Others

(Please give explanation)

4. Does participation in the training have influence on promotion of ex-participants in your organization?

(研修参加と人事評価との関係)

A. a lot                      B. somewhat                      C. No

5. Do you think this training is beneficial to your organization?

(研修成果の効果)

A. very much

B. somewhat

C. No

If so, give the reason of it.

In what way ?

(3) 研修員に対する質問内容

Questionnaire to the ex-participants  
(Please type)

Name in Full \_\_\_\_\_ Age \_\_\_\_\_

Present job \_\_\_\_\_

Present Post \_\_\_\_\_

1. Employment / Work Experience (研修前職歴)

a. Work experience : Before Training at JICA

Work / Job Position	Dates (from to )	Responsibilities

b. Work experience : After Training at JICA. (研修後職歴)

Work / Job Position	Dates (from to )	Responsibilities

2. Evaluation of the JICA training programme. ( J I C A 研修コース評価)

a. Can you apply the knowledge and technique acquired in the training to your present job?

Please check (X) one of those. (研修コースの意義)

\_\_\_\_\_ All \_\_\_\_\_ Most \_\_\_\_\_ Some \_\_\_\_\_ A little \_\_\_\_\_ None

Please state your answer briefly.

b. Do you think JICA training is beneficial to yourself and your organization ?

To yourself (研修員および研修員所属先にとっての有益性)

A Yes

B No

If yes, please check (X) the reason of it.

- Promotion of the position
- Responsibility
- Increase of salary
- Contents of work
- Professional recognition
- International contacts
- Others (Please give example)

If no, please state the reason of it.

To your organization

- A Yes                      B No

Please describe the reason of it in detail.

c. Which part of the JICA training is most useful in relation with your present job?

(現在の仕事内容との関わり)

d. What kind of problems do you have in distribution system for fresh fruits and vegetables ?

Please check (X) the problems in the below. (阻害要因)

- |  |  |
|--|--|
| Lack of <input type="checkbox"/> instructors | <input type="checkbox"/> support of management |
| <input type="checkbox"/> funds               | <input type="checkbox"/> technical literature  |
| <input type="checkbox"/> foreign experts     | <input type="checkbox"/> transport facilities  |
| <input type="checkbox"/> career perspective  | <input type="checkbox"/> foreign currency      |

Various constraints

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> economic situation         | <input type="checkbox"/> brain drain          |
| <input type="checkbox"/> poor management            | <input type="checkbox"/> no suitable training |
| <input type="checkbox"/> too much foreign influence | <input type="checkbox"/> political situation  |

Please describe the problems in detail.

3. Please give us your suggestions for further improvement of this training.





(研修コース改善への提言)

4. Please draw a detailed chart of your organization and indicate your position in it as well as the number of persons in each department, division, section, work team, etc. (研修員所属先の組織図)




4. 研修員名簿

No. 1

インドネシア





	名前・所属先	住所
平成2年度(1990年) 	Mr. Sri Mulyoko Staff of Section Market Analysis, Directorate of Food Crops Economic	Office: Jl. Ragunan 15 Jakarta-Selatan Indonesia Home: Jl. Raya Lenteng Agung Jakarta-Selatan Indonesia
平成2年度(1990年) 	Mr. Dodi Rayadi Department of Cooperative Province West Java	Office: Jln. Soekarno Hatta No. 95 Bandung West Java Indonesia Home: Jln. Rajamantri Kulon 1 Buah batu Bandung West Java Indonesia
平成4年度(1992年) 	Mr. Dadang Syamsul Munir General Manager, Koperasi Pemasaran Hortikultura (KHP), Horticulture Marketing Coop	Office: Jl.M. 1 Ridwan Rais No 7 Jakarta, Indonesia Home: Jl. Tabet Timur Daram IX E No 25 Jakarta, Indonesia
平成5年度(1993年) 	Mr. Mustari Jalal Staff of Formulation Program Section Department of Agriculture Southeast Sulawesi Province	Office: Jl. Balai Kota No.6 Kendari 93111 Southeast Sulawesi Province Indonesia Home: Jl. Pattimura No.36 Kendari 93114 Indoneisa

## インドネシア

	名前・所属先	住 所
平成5年度(1993年) 	Mr. Sriyono Joko Sutopo Head Section of Monitoring and Controlling, Directorate of Food Crops Economic, Ministry of Agriculture	Office: Jl. Ragunan 15, Pasar Minggu, Jakarta, Selatan Indonesia Home: Pondok Sukmajawa, Blok F 4/1 Depok-Jawa Barat Indonesia
平成6年度(1994年) 	Ms. Rinie Sri Yanti Head, Fruits & Vegetables Section, Ministry of Cooperative & Small Enterprise Development	Office: Jln. HR Rasuna Said Kav. 345 Kuningan Jakarta, Indonesia Home: Komp. Departemen Koperasi, B-20 Jln Radar Auri, Mekarsari Cimanggis, BOGOR Indonesia
平成7年度(1995年) 	Ms. Suhartini Achmade Staff of Marketing Sub Directorate, Directorate of Foodcrop & Horticulture Economic	Office: Jl. Ragunan 15 Jakarta, Indonesia Home: Jl. Bojong Indah Raya C2/9, Taman Narogong Indah, Bekasi Indonesia



## マレーシア

	名前・所属先	住 所
平成2年度(1990年) 	Mr. Razalli Bin Muid Development Marketing Officer, The Federal Agricultural Marketing Authority,	Office: Pejabat Fama Negeri Pahang 19, Floor, Kompleks Teruntum, 25000 Kuantan, Pahang Malaysia  Home: E 204, KG. Tengah Kuantan, Pahang Malaysia
平成4年度(1992年) 	Mr. Menet Bin Saad Assistant Marketing Officer (Trading Extension Officer), Federal Agricultural Marketing Authority	Office: 5-8 Floors, KWSP building JLN. RAJA Laut, 50350 Kuala Lumpur Malaysia  Home: 16, JLN. SG. 10/10, Taman Sri Dombak, 68100 Batu Caves, Selangor, Malaysia
平成5年度(1993年) 	Mr. Samsuri Bin HJ. Mohtar Director of Marketing Network Federal Agricultural Marketing Authority (FAMA) Ministry of Agriculture	Office: JLN. Raja Laut 50350 Kuala Lumpur Malaysia  Home: No. 20, JLN. Bidara 2/1 Taman Bidara 68100 Batu Caves Selangor Malaysia
平成6年度(1994年) 	Mr. Ahmad Zakaria Bin Mohd Sidek Agricultural Officer, Department of Agriculture, Ministry of Agriculture	Office: Jabatan Pertanian Negeri Perak 30632 Ipoh Malaysia  Home: No.11, Hala Tasek Timur 8, Kg. Tersusun Tasek, 31400 Bercham, Ipoh, Perak. Malaysia









